



TITLE:

イチモンジセセリ(鱗翅目, セセリ
チョウ科)が京都大学瀬戸臨海実験
所"北浜"で人の足にとまる

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. イチモンジセセリ(鱗翅目, セセリチョウ科)が京都大学瀬戸
臨海実験所"北浜"で人の足にとまる. KINOKUNI 2016, 90: 14-14

ISSUE DATE:

2016-12-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217898>

RIGHT:

発行元の許可を得て登録しています.

イチモンジセセリ（鱗翅目，セセリチョウ科）が 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で人の足にとまる

Parnara guttata (Lepidoptera, HesperIIDae) settled on a human foot at “the Kitahama beach” of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

後翅の裏に4個の白銀紋が一文字に並んでいることから和名がつけられたイチモンジセセリ *Parnara guttata*（鱗翅目，セセリチョウ科）は、日本全国に分布するチョウの一種で、花・汚物・腐果など様々のものに集まる。京都大学瀬戸理解実験所“北浜”における筆者の約20年間の日々の調査において、今回初めて生きた人間の足に止まった希少記録をまとめた。セセリチョウ類が当該地点で吸水した記録もあるが（久保田, 2015）、死体を含む生物体の上に止まった例はない。

2016年8月20日9時15分頃、“北浜”の満潮線付近で、1頭のイチモンジセセリが、ゆっくり歩行中の筆者の足の甲に飛んできて、口吻を伸ばした（図1）。その後すぐにゴムぞうりの上やかかとなどあちこちへ移動しては暫く静止し、その都度、口吻を伸ばした（図2, 3）。この個体が飛び去るまで、少なくとも数分以上も筆者の足に滞在した。この行動は、動画にも収めることができた。本個体は、恐らく、筆者の足についた塩分を吸い取っていたのであろう。

末筆ながら、このチョウの種類の査定を確認して下さった的場 績氏に深謝致します。

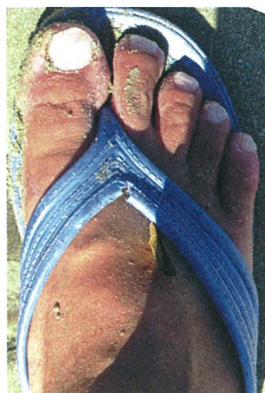


図 1



図 2



図 3

図1-3. 2016年8月20日に瀬戸臨海実験所“北浜”で筆者の足から何度も吸水したイチモンジセセリ

引用文献

久保田 信. 2015. アオスジアゲハとセセリチョウ科の一種（チョウ目）の塩分補給（2015年）. KINOKUNI, (88): 19.

（くばた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）